

日本原子力学会 核燃料部会
令和2年度第一回運営小委員会議事録

日時 : 令和2年8月6日(木) 9:30~12:00 於 WEB会議(JAEA 殿提供)
出席者 : 宇埜部会長、加藤副部会長、大江副部会長、阿部委員、天谷委員、尾家委員、川西委員(途中参加)、草ヶ谷委員、黒崎委員、篠原委員、島田委員、園田委員、谷口委員、橋爪委員、原田委員、樋口委員、松本委員、牟田委員、柳沢委員、山内委員、北芝様(途中参加、渡部委員代理)、竹野様(日本原電)、大堀(記)

議事

1. 前回議事録等の確認(資料1-1,1-2)

大堀から、前回(平成31年度第四回)運営小委員会議事録を紹介した。また、2020年3月以降に実施したメール審議等の実績について報告した。

2. 令和元年度予算の収支実績と令和2年度予算について(資料2)

大堀から、令和元年度の収支実績および夏期セミナーの中止を踏まえた令和2年度予算について紹介した。

また、学会事務局より、今年度の収支見通しの確認依頼があったため、現時点で支出の見通しが立っているものがあれば、8/18までに大堀まで連携していただくこととなった。(学会事務局への収支見通しの回答締め切りは8/21)

なお、例年より収支見通しの提出時期が早いことについて、毎年予算と実収支の乖離が大きい、今年度は新型コロナウイルスの影響でさらに乖離が大きくなると考えられるため、早い段階で学会事務局として収支見通しを把握しておきたいというニーズがあり、この時期の依頼となったと宇埜部会長から補足があった。

3. 令和2年度核燃料部会業務分担について(資料3)

大堀から、今年度および来年度の業務分担について、以下の内容を説明し、了承された。

①今年10月に予定通り庶務幹事を大堀から山内委員に引き継ぐ

②来年度夏期セミナー担当は予定通り MNF 殿が担当する

また、宇埜部会長より、来年度以降の部会長、副部会長の選任基準(大学、研究機関から1名選出するという基準)の見直しについて今後検討したいとの提案があった。本件については、今後部会長および副部会長で議論していただき、その後必要に応じて運営小委で議論することとなった。

本件についての質疑は次の通り。

・部会長、副部会長の選任基準について、規約の改定が必要となった場合にはどういった手続きとなるのか。

→通常、規約の改定は春の年会の全体会議に合わせて部会全体会議の承認を得ているが、メール全体会議で承認を得ることも可能だと思う。具体的な手続きについては調べてみたいと思う。

(追記：核燃料部会規約および細則の改定は、運営小委員会が起案し、核燃料部会全体会議の承認を得たのち、部会等運営委員会および理事会に報告する必要がある。)

4. 企画小委員会の概要について (資料 4)

加藤副部長から、7月16日に開催された企画小委員会の議事録の紹介があった。

5. 核燃料部会・部会賞 (学会講演賞) の選考準備状況について (資料 5)

園田国内企画担当から、秋の大会の学会講演賞について、事前にメール審議された募集要項で講演賞の募集を8/4から開始した旨、報告があった。また、講演賞の選考委員について、協力していただける方を募集しているとの周知があり、可能な方は後日園田委員に連絡することとなった。

続いて、昨年度の部会賞受賞者の表彰をどのように行うかについて議論し、次の内容で検討することとなった。なお、今年度受賞者に対する対応方針については、別途検討することとした。

- ・部会賞受賞の記念品は郵送する。
- ・表彰式は、春の年会の全体会議において行う。年会在 WEB 会議形式で開催される場合も、全体会議の WEB 開催を検討し、そこで時間を設けて表彰する。

本件についての質疑は次の通り。

- ・次回の春の年会在 関東圏の早稲田大学ということもあり、地方からの参加が難しく、新型コロナウイルスの状況がかなり好転していない限りは、WEB 開催になると思われる。

→春の年会在 オンライン開催となった場合、全体会議のためのコマを割り当てるのが可能か確認する。

→秋の大会で総会をオンライン開催する部会もあったはずなので、春の年会在 も可能だと思う。

6. ポジションステートメント WG ポスターセッションについて (資料 6)

加藤副部長より、秋の大会でのポジションステートメント(PS)に関するポスターセッションについて説明があった。

ポスターセッションは、核燃料部会が発行した燃料デブリの PS を含む 4 件を対象に行われ、専用の枠 (ブレイクアウトルーム) に PPT を掲載した上で来場者に説明するという形式で行われる (コアタイムは午前 2 時間、午後 2 時間の合計 4 時間)。なお、資料の作成は電中研の尾形様に依頼している。

本件について、本 PS に関わりのある方を中心にポスターセッションの説明者となっただけの方を探しているとの周知があり、協力可能な方は後日（可能であれば 8 月中に）加藤副部長に連絡することとなった。（ただし、説明者は学会参加者である必要がある。）

7. ATOMOΣ連載講座について（資料 7）

加藤副部長より、原子力学会誌 ATOMOΣ への連載講座記事について、現在の検討状況が報告された。また、現在検討中の第 6 回「将来の原子炉のための燃料開発」の内容について、コメントがあれば加藤副部長に連絡することとなった。

本件について、主なコメントは次の通り。

- ・第 6 回の内容としては、燃料開発のための照射試験炉、燃料物性等に関する計算科学技術等について記載しても良いのではないか。
- ・全 6 回に限らず、仮に回数が増えたとしても問題ないと思われるので、それを踏まえて、テーマを検討されてはどうか。

8. 「1F 事故 10 周年シンポ」未来像編 WG メンバーの選出について（資料 8）

大江副部長から、部会等運営委員会から依頼のあった「1F 事故 10 周年シンポ」の未来像編 WG メンバーの選出について、事前にメール審議した通り、次の 2 名を選出した旨報告があった。

- ・原子力機構 鈴木 恵理子 様
- ・原子力機構 渡部 雅 様

本件について、主な質疑は次の通り。

- ・今後、各部会に本シンポジウム関係で協力すべきことはあるか。
- 具体的な内容はこれから決めていくことになるため、現時点で依頼はないが、必要に応じて協力依頼があるかもしれない。

9. 核燃料部会報 56-1 の作成状況について（資料 9）

部会報担当の柳沢委員から、新型コロナウイルスの影響で No56-1 の記事が少ないことを受けて、部会報 No.56-1 の掲載記事についての相談があり、議論の結果、部会報 No56 は 1 と 2 を合併することで了承された。

本件について、主な質疑は次の通り。

- ・部会報は、部会の近況を周知するために発行しているという側面があるため、ページ数が少なくても発行したほうが良いという意見があり、発行することで検討している。
- 記事が少ないのであれば、無理に発行せずに、1 と 2 を合併することでも問題ないのではないか。

- ・もし部会規約を改定するのであれば、それは記事になるかもしれない。
→部会規約の改定を周知するために部会報を無理に発行することはする必要がないと思う。記事が少ないのであれば、合併することで問題ないと思う。
- ・最近の部会報の内容は、国際会議の参加報告のような内容が多く、もう少し別の記事があっても良いのではないか。
→どういった記事が可能かは検討する。
- ・もし、部会報の合併に伴う発行延期について部会員に周知するのであれば、庶務幹事から情報メール配信を依頼するため、連絡していただきたい。
→承知した。

10. その他

(1)委員交代について（資料 10）

大堀から、日本原電島田委員から竹野委員への委員交代に関する部会全体審議の手続きについて 8/7 付で情報メールにて行う旨を紹介し、了承された。

(2)TopFuel について（資料 11）

加藤副部長から、2021 年度開催の TopFuel について、2021 年 6 月 6 日~10 日にスペインで開催予定であること及び TopFuel 事務局からプログラム委員の依頼が MNE,GNF-J 殿にあったことの周知があった。（日本からはプログラム委員を 2 名選出することとなっている。）

プログラム委員に関しては、GNF-J 殿が了承するか否かが決まり次第、草ヶ谷委員から加藤副部長に連絡することとなった。

(3)ジルコネットの開催時期について

阿部委員より、来年度開催予定のジルコネットについて、本会議が核燃料部会共催であることから、ジルコネットの開催日程は今後運営小委に諮る予定であるとの説明があった。

(4)次回運営小委員会について

次回の運営小委員会は、企画小委員会開催後に開催することとした（11 月頃の予定）。なお、企画セッション提案書の提出前に運営小委を開催すべきであることから、それを踏まえて、開催日を今後決定することとした。

以 上